
21 世紀 COE プログラム
ジェンダー研究のフロンティア

女 家族 地域 国家 のグローバルな再構築

第 2 回 F-GENS シンポジウム

中間報告型

ポスト冷戦期のアジアとジェンダー研究

お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム「ジェンダー研究のフロンティア 女 家族 地域 国家のグローバルな再構築」(F-GENS)は、2005 年 11 月 5 日(土) 6 日(日)の 2 日間にわたり第 2 回 F-GENS シンポジウム「ポスト冷戦期のアジアとジェンダー研究」を開催する。

昨年 12 月に開催された第 1 回 F-GENS シンポジウムでは、ジェンダーの視点からより高次の「人間開発」を追求し、平等化に向けた社会の実現にあたって最大の障害といえる「暴力」に焦点をあて、グローバル化のもとでのその新しい展開を再考することを目的として、テーマを「グローバル化、暴力、ジェンダー」と設定した。このシンポジウムは 5 年間の COE プログラムの全体を貫く問題意識を提示する問題提起型であったのに対して、第 2 回シンポジウムは実質 2 年余の研究教育拠点形成活動の成果に基づいた中間報告型を目指す。今回のテーマである「ポスト冷戦期のアジアとジェンダー研究」は、米ソ冷戦体制の緊張関係が終焉する一方で、より複雑さと困難を露呈しているポスト冷戦期という新たな世界状況のもと、ジェンダー研究はどのようにその状況を切り拓く知と実践を提示し得るのか、間アジア的視点に立って語りあう場にすることを意図している。

一日目の基調講演では、戴錦華(北京大学)が、帝国化するアメリカを射程に入れ、ポスト冷戦期が中国社会にもたらした大きな変化を、文化政治におけるジェンダーの視点から論ずる。

次に第 1 セッションでは、冷戦期以降の沖縄・韓国・米国における「日本表象」をテーマとし、基調講演における中国を含みながら、「日本」が照射されている視線を、「日本」という枠組みをゆるがす「問いかけ」として受け止め、文化と政治の交差のなかで何が生じているのか、議論を展開したい。

二日目は、まず、若手研究者の企画運営によるセッションを行う。若手研究者支援は、本 COE プログラムが担う重要な責務の一つであるが、このセッションをその成果の発表の場としたい。創造性と可能性に満ちた若手研究者による議論のうちから、21 世紀社会を形作る知が見出されることであろう。

最後の第 2 セッションでは、各プロジェクトから、これまでの研究成果の一部を提示する。ポスト冷戦期は、紛れもなくポストコロナナルな時代である。と同時に、グローバル化の進展によって、文化・経済等の領野における新たな植民地化の危険をはらむ時代でもある。その理論的パースペクティブに基づき、HIV/AIDS に関わる沖縄における性教育の調査、中国、韓国におけるパネル調査から見てきたジェンダー平等政策への模索、日本における人身売買の被害調査研究など、各プロジェクトの個別調査研究を事例に、ジェンダー政策につき、検討を加え、考察を深め、今後の研究の展開に資するものとする。加えて、このセッションは、基調講演ならびに第 1 セッションでの議論に対する、具体的な応答ともなるべきものであり、シンポジウム全体の結びとして、かつこれからの展開への新たな出発点として位置づけられるものである。

2005 年 8 月 15 日

第 2 回 F-GENS シンポジウム担当事業推進担当者：石塚道子、菅聡子、館かおる

第 2 回 F-GENS シンポジウム実行委員会：足立真理子、石塚道子、大理菜穂子、菅聡子、竹沢純子、館かおる、永瀬伸子、水野勲、山口菜穂子
